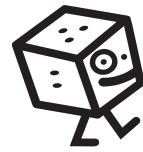


発行日：
2025年3月16日

明治学院大学心理学部 白金心理学会報

さいころ



第17号

2024–2025 白金心理学会イベント

- ・2024年4月1、2日
学生部会心理学科SC
新入生フレッシャーズ研修・
キャンパスツアー・相談会
- ・2024年6月22日
学生部会教育発達学科SC
春学期新入生交流会
- ・2024年10月27日
学部設立20周年記念・
白金心理学会第17回大会：
総会、2023年度奨励費獲得者
研究成果報告、トークセッション、
パネルディスカッション、懇親会開催
- ・2024年10月24日、11月7日
学生部会大学院SC
「大学院生と話そう！」
- ・2024年11月30日
学生部会教育発達学科SC
秋学期新入生交流会

会報第17号発行に寄せて

水戸 博道先生(心理学部長)

2020年に始まったコロナ禍は、瞬く間に我々の生活を一変させてしまいました。その後5年を経て、我々はようやく平常な生活を取り戻しつつあります。しかし、現在、世界中で起こっている紛争、物価高、異常気象は、我々の生活を再び非日常へと突き落とすほどの危機と言えるかもしれません。そして、これらの危機は、何の前触れもなく降りかかってきたコロナ禍とは異なり、何もしなければ行き着く先の惨事は予見可能なものです。

コロナ禍で「一瞬先は闇」を経験し、さらに不安な未来に向き合っていかなくてはない中、今ほどこの健康を保つ心理学、そして、世の中を正しい方向へと導いていくための教育の研究が求められている時代はないと言えます。本年度の白金心理学会では、こうした現代社会

の抱える課題を受け、「Well-beingに心理/教育はどういう貢献できるか」といったシンポジウムを開催しました。このシンポジウムでは、人々が健康

であり、満たされた生活状態であるために、異なる専門分野の教員一人ひとりが如何に自身の研究を活かしていくかを考える機会となりました。心理学部のこうした取り組みは、今後も続きます。そして、こうした取り組みの一端を白金通信においてこれからも発信していきたいと思います。



水戸 博道先生

白金心理学会第18回大会のご案内

手塚 千尋先生(教育発達学科准教授)

白金心理学会は2024年に開設20周年を迎えた。心理学部の同窓会組織でもある白金心理学会では、卒業生と在学生、現職の学部教員や退職された先生方との研究交流や親睦を深める機会として、年次大会を開催しています。

白金心理学会第18回大会は、2025年6月8日(日)に白金キャンパスにおいて対面で開催します。前半は白金心理学会総会と2024年度研究奨励費獲得者による研究成果報告会(ポスター)

セッション)を行います。

ティーブレイクを挟んだ後半は、在学生が心理や教育の研究を身近に感じられるようにすることを目的に、教員や院生・学部生が熱中している研究テーマを紹介しながら、研究活動の魅力やリアルを語り合うブリットトークの開催を計画しています。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしています。

(18回大会スケジュール) 2025年6月8日(日)

時間	イベント	会場
12:30 -	受付	
13:00 - 13:20	総会	明治学院大学白金キャンパス アートホール
13:20 - 14:20	2024年度研究奨励費獲得者による ポスターセッション	ダイニングラウンジ・インナー広場さんさん
14:20 - 15:00	ティーブレイク	ダイニングラウンジ・インナー広場さんさん
15:00 - 16:30	ブリットトーク:「ハマる研究/広がる視野: 学部生&教員リアルトーク(仮)」	

目次：

会報第17号発行に寄せて

1

白金心理学会
第18回大会のご案内

1

第17回大会報告

2

研究奨励事業報告

2

記念企画①
トークセッション

3

記念企画②
パネルディスカッション

4

新任教員のご紹介

5

学生部会SC活動報告

6

事務局よりお知らせ

6

第17回大会報告

水戸 博道先生(心理学部長)



大会の様子



懇親会の様子

白金心理学会第17回大会が、2024年10月27日(日)に開催されました。今年度は、心理学部の開設20周年の年となり、大会は記念大会として午前と午後に分かれて行われました。大会当日には、学部生、大学院生、卒業生、OB教員、教職員合わせて144名の方々にご参加いただき、総会、2022年度研究奨励費獲得者による研究成果報告に加え、OB教員をお迎えした記念企画が2つ行われました。総会では、2023年度事業報告、決算報告および会計監査報告、2024年度の事業計画案および予算案が報告され、いずれも滞りなく承認されました。次に、「学部設立20年をふりかえる」と題したトークセッション(記念企画1)が行われました。この記念企画では、OB教員の金子健名誉教授と花田安弘名誉教授をお迎えし、これまで聞くことができなかった心理学部設立当時の興味深い逸話をご披露いただきました。また、現職教員の小林潤一郎先生、辻宏子先生、西園マーハ文先生からは、教育発達学科、教育発達学専攻の設立当時の苦労話や、心理臨床センターの歩みについてお話しいただきました。

2022年度研究奨励費獲得者による研究成果報告は、今年度からの初めての試みとして、場所を懇親会会場に移しポスターセッションの形式で行われました。ポスターセッションは、懇親会の懇親会中も続けて行われ、発表者は、OB、教職員から貴重な意見をいただくことができました。午後の部は、記念企画2として、パネルディスカッション「Well-beingに心理/教育はどういう貢献できるか」が行われました。パネリストとして清水良三名誉教授、金沢吉展名誉教授、野村信威先生をお迎えし、それぞれの先生方のご専門の立場から、Well-beingの考え方について多くの示唆をいただきました。このシンポジウムでは、臨床家、教員、研究者として我々が今後どのようにWell-beingに向き合っていくべきかを考える貴重な機会となりました。

今年度の大会は、20周年記念として午前、午後の長丁場の開催となりましたが、多くの方々にご参加いただき、また、多くの貴重なご意見等もいただきました。本当にありがとうございました。

研究奨励事業報告

根本 淳子先生(教育発達学科准教授)



白金心理学会第17回大会では、2023年度研究奨励事業における5件の研究奨励費獲得者の研究成果報告が行われました(タイトルは発表時、所属は採択時の情報)。

(1) 「家族を介護し看取った遺族の精神的健康度に影響する要因—継続する絆と後悔に着目して—」 大出結喜(心理学専攻博士前期課程臨床心理学コース)、推薦教員: 西園マーハ文教授

(2) 「高齢期におけるテンポ同期とテンポ維持のスキルに関する研究—拍の知覚能力との関係性に着目して—」 北村はるか(心理学専攻博士後期課程)、推薦教員: 水戸博道教授

(3) 「若年層の芸能人における心理的特性—過剰適応傾向と承認欲求に注目して—」 木下縁(心理学科)、推薦教員: 金沢義展教授

(4) 「テレワーク下の新規学卒者におけるふれあい恐怖心性と社会的交換関係の質の関連」 鹿野宏太(心理学専攻博士前期課程臨床心理学コース)、推薦教員: 森本浩志教授

(5) 「動線誘導に有効な矢印デザインと呈示位置に関する視線計測器を用いた検討」 雪澤沙都(心理学科)、推薦教員: 金城光教授

発表要旨を白金心理学会HPに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

研究奨励者による報告は、これまで獲得者代表からのプレゼンテーションを中心に行ってきました。本年度は、20周年行事との関連を考慮し、新たな方法で実施いたしました。懇親会場であるパレットゾーン「さん・サン」にて獲得者のポスターを掲示し、各発表者5分程度の概要説明の後に、参加者と発表者の交流の時間を設けました。この試みは研究内容に対する理解を深める意見交換の場として充実したものとなりました。

研究奨励事業への申し込みに関する詳細な情報や、過去の報告要旨を白金心理学会HPに掲載しております。ご応募をお待ちしております。白金心理学会HP内研究奨励事業 <https://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/research/>



研究奨励報告の様子

記念企画① トークセッション「学部設立20年をふりかえる」

小林 潤一郎先生(教育発達学科教授)

2004年4月に心理学部が開設されてから20年が経過し、教職員の多くが入れ替わり、学部の歩みを知るものも少なくなりました。このトークセッションでは5人の先生に登壇いただき、これまで心理学部がどのように歩んできたかを語っていただきました。

トップバッターは金子健先生です。先生は心理学部の母体となった文学部心理学科の創設メンバーであり、長く心理学部を牽引してされました。文学部教職課程でカウンセリング心理学と特別支援教育を担っていた教員を中心となって1990年に文学部心理学科が開設された当時の様子を、多くの写真を交えてお話くださいました。学科の学生（定員60名）・教職員全員で撮影した写真、各ゼミの教員と学生の写真も拝見しました。先生は写真に写る学生を「ここに写っているのが○○さん。こっちが△△君。」などと昨日のことのように覚えておられ、そして会場には当の○○さんがお見えになっておられました。一人ひとりの学生を大切にしてこられた先生とそんな先生のもとで育った卒業生の姿に心理学部の原点を見る思いがしました。アットホームにかかわり合いながら切磋琢磨していく心理学部の持ち味を引き継いでいきたいと感じました。

続いて花田安弘先生が壇上に登られました。先生は本学一般教育部（現教養教育センター）を経て、学科定員が200名に増員になると同時に文学部心理学科に着任されました。「こんなにたくさんの人の前で話すのは久しぶり」とおっしゃりながら、現役時代と変わらぬ熱弁をふるってくださいました。先生は、上智大学を例に、教員は学生をもっともっと鍛えなければならぬと激励くださいました。多くの大学で学生の英語力が入学当初をピークにその後は下がっていく中、上智大学では徹底的に学生を鍛え、学年を追うごとに学生の英語力が伸びていきました。このことが社会から高く評価され、それとともに入試難易度が高まり、ますます学修意欲も学力も高い学生が入学してくるようになったことをお話し下さいました。心理学部には、個々の学生の力を引き出し高めることのできる教育がなお一層求められると感じました。

小生からは教育発達学科が誕生した経緯をお話しました。2008年7月の心理学部臨時教授会で当時の学長から明治学院創立150周年に向けた教学改革の一環として心理学部に教育系学科の設置が提案されました。心理学科では中学社会、高校公民、特別支援学校教諭免許の課程認定を受けていましたが、卒業後に他大学で免許をとり小学校教員になるものも少なくなかったことから、すぐさま新学科WGがスタートしました。メンバーは藤崎眞知代先生、金子健先生、緒方明子先生、山崎晃先生、清水良三先生と小生でヘボン館5階の研究室を拠点に大急ぎで学科新設の準備を進めました。2009年5月末の締切2日前に文部科学省に分厚い設置認可申請書を提出し、10月に無事設置認可を得ることができました。2009年12月までの1年半に実に85回のWG会議を重ねた成果でした。

続いて辻宏子先生から教育発達学専攻の誕生の経緯が語されました。2010年4月に開設した教育発達学科1期生の卒業に合わせて2014年4月に大学院心理学専攻に教育発達心理学コースが設けられ、2016年4月にはこのコースをもとに教育発達学専攻が開設されました。教職大学院とは一線を画し、理論と実践に基づく探求と専門知識をもとに高度な支援力を養う修士課程を開設したことなどが説明されました。

最後に西園マーハ文先生から心理臨床センターの相談活動等の現状についてお話し下さいました。2001年10月に開設され、2004年4月から心理学部付属研究所の相談・研究部門となった心理臨床センターですが、毎年、地域の方々からの多数の相談に応じ、地域と大学の接点としての役割を果たしていることが示されました。スクールカウンセラーからの紹介も多く、さらに港区児童相談所との連携も進められていることなどが説明されました。

こうして心理学部の歩みと先生方の思いを共有することができ、今後の学部の発展の方向性を考える機会となりました。会場にはなつかしい旧教職員、卒業生の姿が多数あり、10年後、20年後にまた皆でこのような機会をもつことを約してセッションはお開きとなりました。



小林 潤一郎先生



トークセッションの様子

記念企画② パネルディスカッション 「Well-beingに心理/教育はどのように貢献できるか」



萩野谷 俊平先生



パネルディスカッションの様子



心理学部・心理臨床センター20周年記念大会の一環として、「Well-beingに心理/教育はどのように貢献できるか—心理学部の未来を語ろう」と題したパネルディスカッションが開催されました。この企画では、多様な専門分野をもつ以下の3名のパネリストの先生方によるご講演が行われました。また、共生社会の実現に向けて、明治学院大学心理学部が果たす役割やWell-beingへの貢献について、過去と現在の取り組みを踏まえて、未来に向けた心理学部の在り方を在学生、卒業生、教職員が語り合う場となりました。

◎清水良三先生
(教育臨床心理学、臨床動作学)

タイトル

「臨床動作法による生涯発達／Well-beingの支援」

清水先生からは、臨床動作法の実践からWell-beingを支援する方法が取り上げられました。ご講演では、体験様式の変容を通じて心身の健康や発達を支援する心理援助法・心理療法として、臨床動作法を中心とする心理リハビリテーションが紹介されました。臨床動作法については、心と身体の一体性を重視し、肢体不自由児者や高齢者に対する支援を例に挙げ、動作による自己との対話を通じて主観的幸福感を高める方法が紹介されました。また、動作法の実践が被災者支援や教師教育においても効果を発揮していることが示され、心理学科と教育発達学科を擁する心理学部ならではのWell-being促進の可能性が示されました。

◎金沢吉展先生
(健康心理学、臨床心理士の発達と教育・訓練等)

タイトル

「心理臨床家のWell-being」

金沢先生からは、心理臨床家（セラピスト）のWell-beingがテーマとして取り上げられました。ご講演では、心理療法の効果において、セラピストがクライエントに示す共感的理解や

萩野谷 俊平先生(心理学科専任講師)

自己一致といった共通要因の重要性が強調される一方で、技法や関係性に問題がある場合、それがネガティブな結果を招く要因になり得ることが指摘されました。また、心理臨床家に対して非常に高い要求が課される中で、ストレスやバーンアウトを防ぐためのセルフケアの重要性が強調されました。特に、仕事と関わりのない有意義な人間関係を楽しむことや、趣味やプライベートな時間・空間を確保することが、セラピスト自身のWell-beingだけでなく、クライエントの支援にも大切であると説明されました。

◎野村信威先生
(高齢者心理学、語りやナラティブなどの質的検討等)

タイトル

「認知症とともに生きる人のWell-being—共生社会の実現にむけて」

野村先生からは、認知症患者のWell-beingがテーマとして取り上げられました。ご講演では、英国と日本における認知症当事者による組織や認知症の啓発活動について解説され、スコットランド認知症ワーキンググループを設立したジェームズ・マキロップ氏へのインタビューが紹介されました。また、早期診断や診断後支援の重要性が強調され、野村先生が本学部心理学科の森本先生と共同で実施されている診断後支援プログラムの事例が示されるとともに、患者が認知症とともに生きようとする姿勢が主観的幸福感を維持することにつながっている可能性が指摘されました。

パネリストの先生方によるご講演の後に行われたディスカッションでは、在学生、卒業生、教職員から各パネリストへの質疑が活発に行われました。異なる視点からのWell-beingに関する講演とディスカッションは、多様な専門分野を擁する明治学院大学心理学部ならではの企画であり、参加者にとって充実した時間になったものと思います。

新任教員のご紹介

高野 公輔先生

2024年4月に着任しました、高野公輔(たかのこうすけ)です。これまで、大学病院や総合病院などで、患者さんやその家族の心理支援に携わりながら研究を行ってきました。専門は健康・医療心理学で、身体疾患を抱える人の心理支援や意思決定支援、身体疾患や医療チームに関わる心理職の養成などのテーマを研究しています。病気になると、これまで通りの生活ができなくなったり、治療や療養場所など、様々な選択を迫られることがあります。このような状況の中で、患者さん自身が納得のいく選択をし、自分らしく生きられるよう、心理学の知見を活かして支援することに関心があります。明治学院大学で出会うみなさんと一緒に学び合えることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひいたします。



高野 公輔先生

小保方 晶子先生

2024年4月より教育発達学科に着任いたしました小保方晶子(おぼかたあきこ)です。専門は、発達心理学、幼児教育です。乳幼児期から青年期の子どもの自己制御や社会性の発達について研究を行っています。子どもの発達について国際比較や臨床的な支援にも関心があります。明治学院高校の出身です。高校時代を過ごした白金キャンパスに戻ってくることができて大変嬉しく感じています。チャペルの時間を楽しみに参加しています。本学でみなさんと学びを深めていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



小保方 晶子先生

高田 圭二先生

2024年4月に心理学科に着任しました。専門はポジティブ心理学や認知心理学で、マインドフルネスがwell-beingを高めるメカニズムについて研究しています。研究の甲斐あって、理論的にはこうすればwell-beingにも良いはず!ということはわかつてきました。しかし、必要な時に限ってうまくいかないこともあります。「ぐぬぬ…」となることもあります。そんな時はお菓子やお酒に頼って手っ取り早く幸せを摂取してしまいます。全くもってwell-being研究者らしからぬ手段ではあるのですが、こういった緩さもまたwell-beingには重要だと思います(程度にもよりますが)。大事なことを追求するためにも、適度な緩さを心がけたいなあと思う今日この頃です。どうぞ宜しくお願ひ致します。



高田 圭二先生

住所変更フォームが変わりました

「白金心理学会」は卒業生と在学生、そして教職員の交流と教育、研鑽のためのネットワークです。今後の大会のお知らせなどを届けるため、卒業時から現住所が変わった、もしくは、ご実家のご住所が変わったという卒業生のみなさまは、事務局まで現在のご住所をお知らせください。

下記のURL、もしくは右記のQRコードからご連絡をお願いいたします。
(別サイトタブが開きます。)

白金心理学会登録住所変更ご連絡用フォーム
<https://forms.office.com/r/624inZ79JH>



学生部会SC活動報告



今年度SCの集合写真

SC活動一覧

4月	・心理学科： フレッシャーズ研修、 キャンパスツアーや 相談会
6月	・教育発達学科： 春学期新入生交流会
10月	・大会運営補佐 ・大学院： 「大学院生と話そう！」
11月	・大学院： 「大学院生と話そう！」 ・教育発達学科： 秋学期新入生交流会

〈心理学科SC〉

心理学科SCでは、新入生が充実した大学生活を送れるよう、イベントの企画・運営を行っています。

4月には、新入生歓迎会としてフレッシャーズ研修を実施し、大学生活のガイダンスや交流を深めるレクリエーションを行いました。6月には、初めての期末試験やレポート、一人暮らしなどの不安を先輩に相談できる相談会を開催し、参加者から「不安が解消され、先輩とのつながりもできて安心した」との声をいただきました。

11月には1年生のSCも加入し、新入生支援の準備を進めています。活動の中で考え方の違いに直面することもありましたが、互いに意見を尊重しながら取り組んできました。これも皆様のサポートのおかげです。心より感謝申し上げるとともに、今後ともよろしくお願ひいたします。

〈教育発達学科SC〉

教育発達学科SCでは、新入生の交流を目的としたイベントの企画・運営を中心に行っています。

今年度は、4月にはフレッシャーズ研修、春学期・秋学期にはスポーツ交流会を開催し、クラ

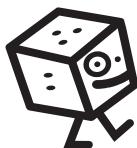
スの垣根を超えた交流を行うことができました。

また、今年度は、1年生SCにも企画の時点から積極的に参加してもらい、明確な目標を設定した上で、全員で一丸となって企画を成功させることができました。

来年度も反省点を生かし、集団として成長できるよう精進してまいります。今後とも、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

〈大学院SC〉

大学院SCは2024年10月24日と11月7日の2日間で「大学院生と話そう！」を開催しました。今年度は数年ぶりに対面で開催し、9名の方にご参加いただきました。大学院の紹介や個別相談会を行い、臨床心理学系の大学院へ進学を検討する心理学部生への疑問を解消し、キャリアプランのサポートを行うことができたと考えております。参加者からは「院生と話せたことでこれからやるべきことがはっきりとし不安が少なくなった」、「対面であるため大学院生同士の雰囲気の良さが感じられてよかった」と感想が集まりました。今後も大学院生と学部生の交流を増やすような活動を行う所存ですので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



発行：
**明治学院大学心理学部
白金心理学会 事務局**

〒108-0074
東京都港区白金台1-2-37
明治学院大学
心理学部共同研究室内

TEL & FAX:
03-5421-5814

問い合わせ用E-mail :
shinro@psy.meijigakuin.ac.jp
白金心理学会ホームページ
URL : <https://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/>



白金心理学会第18回大会参加申し込み
（在学生・卒業生・教員用）



事務局よりお知らせ

○次回大会について

白金心理学会第18回大会は2025年6月8日（日）の開催を予定しております。

○教員の動向

2024年度で退職される先生

教育発達学科：越智拓也先生

2025年度研究サバティカルの先生（2025年度は出校されませんので、ご注意ください。）

心理学科：金城光先生、西園マーハ文先生

教育発達学科：鞍馬裕美先生

○白金心理学会ホームページ　—大会や学会情報も随時HPでお知らせいたします！—

白金心理学会事務局からのお知らせ、白金心理学会が主催するイベントのお知らせ（在学生、卒業生向け）、広報紙「さいころ」のバックナンバーなどを掲載しています。また、連絡先の変更や大会の申込みなどもホームページから行うことができます。スマートフォンからも閲覧できますので、是非一度ご覧ください。

○卒業後連絡の取りやすいメールアドレスのご登録をお願いします！

白金心理学会HPより変更可能です。是非、ご協力をお願い致します。